

授業改善書

科目名	西洋思想史
担当者	高野昌行

授業の概要

この授業では、おもに社会思想史の観点からヨーロッパの人間観・社会観の変遷を扱います。宗教と政治の関係、欲望と理性の関係、近代社会が問題にしてきたことなどの考察を通して、多文化が否応なく共存せざるをえないヨーロッパの歴史が形成してきた諸理念・諸規範の意義や限界について講義します。

授業の問題点

アンケート中「学習態度」の2「授業外学習（予習・復習）」、3「質問と発言」が3点台である。

2について：学生になじみのない授業内容なので予習は求めず、授業前に前回レジュメを眺めることのみを求めたが、実行したのはごく少数にとどまっている。

3について：「質問・発言」。リアクションペーパー（以下で〈リアペ〉）には良い質問が毎回数枚あったが、授業中に何らかの発言・回答するのは、他の学生の視線を気にする傾向のある学生にはハードルが高い。それをクリアして、発言しやすい雰囲気を作るのは今回も困難だった。

学生の授業満足度

アンケートのサンプル数（26）が少ないが、「授業についての評価」は全項目ほぼ4.5近く、満足度は高いのではないかと考えられる理由は、以下の2つかと思われる。

①授業後の質問は2、3回だけだが、〈リアペ〉には毎回具体的な質問・感想があり、毎回できるだけそれにコメントしつつ、前回内容の確認や新たな内容への導入につなげたこと。

②講義全体のテーマと各週のテーマの関連を、毎週説明してから授業に入ったこと。

授業改善の課題と方策

授業では、学生の関心や集中力を維持させる内容・進行が最も大切で難しい課題である。

①学生の関心について。授業を理解させることが第一と考え、今年度は内容をかなり絞り込んだが、西洋思想のうち、現代の日本社会の問題につながるようなテーマをいくつか入れるのというやり方もある。

②学生の集中力の維持。授業中に学生を指名して発言（知識ではなく、感想を言わせる）機会を増やす。

③学生を指名して次回までにかんたんな項目を調べさせ、2、3分の簡単な発表をさせる。ただこれは学生過大な要求のような気がする。

その他

とくに記すべきことはない。